



長島昭久

内閣総理大臣補佐官

昨年秋のことだ。トランプ氏がアメリカ大統領選で勝利し、石破茂首相が会いたいを申し入れ、断られるひと幕があった。メディアの多くがこれを石破外交の失点と取り上げ、またかつての安倍晋三元首相とトランプ氏の蜜月と比較して「石破首相で大丈夫か」とまで報じた。だが、水面下で日米外交の知られざる交渉が行われていた。じつは、同時期に訪米し、トランプ陣営と接触していたのが、石破政権の外交戦略のキーマン・長島昭久内閣総理大臣補佐官だった。長島氏に、日米首脳会談の舞台裏と今後の外交戦略を聞いた。

過剰なくらいの厚遇だった
しかしまだ1回の表。

―― まずは、2月上旬に行われた初めての石破・トランプ首脳会談をどう総括しているか。

長島 正直、トランプ大統領が何を言うのか分からない状況でした。それに一抹の不安はありましたが、サブライズや予想外のことはひとつもなかったのはよかったです。事務方としては、非常にいい準備ができました。また、アメリカによる日本への対応は、過剰なくらいの厚遇だったと思います。お互いもう一度会おうという感じになりましたし、われわれとしては安堵しました。

―― 長島さんは11月に訪米してトランプ陣営と話を詰め、帰国してからは首脳会談にどう臨むか中心になって戦略を立てたと聞いている。

長島 考えたのは積極的な提案です。具体的には、2027年度以降も防衛力を強化していく方針を伝えたこと。27年までは現行の防衛関連予算を2倍にして継続的に強化していきます。これは決まっています。その先も安全保障面での協力を続けていく

「日米首脳会談で大事にしたのは積極的な提案」

方針は伝えようと思いましたが。

―― 金額だとかの話ではなく。

長島 方針です。かつてのアメリカは世界の警察と言われ、持ち出しを多くしてまでそれに徹してきましたが、結果的に自分たちの国力が疲弊してきた。トランプ大統領を支持するMAGA (Make America Great Again) の人たちはそう考えていて、トランプ大統領自身も強い同盟国とは協力するけど、弱い同盟国は遠ざけるという姿勢です。

そうした姿勢はトランプ大統領だけではなく、米国はこれまでも一貫しています。かつてはキッシンジャーも台湾を切り捨てている。歴代大統領も表現こそ変えているけど、その本質は変わらないわけです。今回日本が今後も長く防衛面での協力を示したことで、アメリカから見れば強い同盟国、頼りになる同盟国だと認識されたんじゃないでしょうか。

―― 特に経済についてはさまざまな提示をしたようだが。

長島 アメリカに対して1兆ドルの投資を提案しました。ネットを中心に、まるで政府が出すかのような言説もありますが、民間による投資です。現在でも8千億ドル規模に達していますから、正直1兆ドルはそこまで大きく出た数字ではないんです。ただ、区切りのいい数字で提案ができたと思います。

他にも重要なのはLNG (液化天然ガス) について。今回、日本はアラブに北部の天然資源に関する共同事業への参加や輸入も提案しました。

このように積極的な姿勢を示したことが功を奏したと思います。とはいえ、野球に例えるならまだまだ1回の表を終えたばかりです。―― 敵の攻撃を何とか防いだというところ？ またまたこれからだ。

長島 そうです。特にこれからウクライナ戦争を終えていく過程で、G7の結束が重要でしょう。日本はヨーロッパとアメリカの板挟み状態です。この場面で、どう発言をしてくか。ここでの振る舞い、発言が今後の日本の安全保障面における存在感にも関わってくるでしょう。

欧州と米国の板挟み状態で
中国との距離感も見極める

―― 岩屋外相は国際会議の場でウクライナ支援を継続すると発言した。トランプ大統領に全面的に同調せず独自の姿勢を示した。

長島 そうですね。実際、現在日本が行っているウクライナへの戦争そのものへの支援はほとんどない。経済的、人道的支援に限られており、兵器を送っているわけじゃないのです。ですから、そういう意味で言うと、やはり復興支援の面ですっかり

やる姿勢を見せることが、日本としては一番バランスのいいやり方じゃないかなと。

また、アメリカは停戦監視や平和維持をヨーロッパがやれと言っていますが、日本も自衛隊を送るのかどうか、ここは難しい判断になると思います。そういったことも議論することになるでしょう。NATOやI P4 (日、英、ニュージランド、韓) などとの関係も考えながらの決断になると思います。

―― NATOについては岸田政権時代に関係を深めた。日本がトランプ氏に近づきすぎるとせつかくのNATOとの関係もこじれる。

長島 例えは、今後アメリカとヨーロッパの関係が離れていけば、中国などはもう一度ヨーロッパに接近しようとするでしょう。日本が、アメリカと一緒にあってヨーロッパから距離を置くようなことになれば、それを促進することになります。

日本はうまくアメリカ、NATO両方とのバランスを取って動かないといけない。発言の中身、仕方、タイミングなどで知恵の使いようです。―― 中国との関係は。